

トマト畑 から



第18号

彼岸花が終わり

本格的な秋です

お米の収穫が終わりましたがどうでしたか。

今年は天候に恵まれ収穫量が多く、米価は今まで経験にない高値でしたね。「米作りは時給10円」と言われた時期もやめずに続けてきた稲作農家にとっては一息つけましたね。

久万高原町では耕作面積1ha未満の農家が7割を超え、ほとんどの農家が小規模家族農業です。小規模家族農業は日本でも世界的にも農業経営体の中心です。ここにこそしっかりと補助と支援をすべきです。胸を張ってご一諸に頑張りましょう。

また、お米は日本人の主食です。米価が高ければ高い程よいわけではありません。安全で美味しいお米を皆さんに食べてもらいたい。消費者と生産者が納得できる米価はあるはず。とりわけ国やJAは両方の立場を理解し、指導(調整)力を発揮すべきです。二度と店頭から米が消えないために。

こんな声聞いたよ

- (Aさん) 農業をしようという若い人が増えて嬉しい。応援したい。学校給食を無償にしてはどうか。
- (Bさん) 都会から久万高原町に移住した。生活には今のところ不自由はないが、急に眼科受診が必要になり、町立病院に行ったが、診察日ではなかったため、松山までおいなければいけなくなって困った。
- (Cさん) 情報の周知徹底のためにも、町からの補助金などについて防災無線で知らせて欲しい。
- (Dさん) 以前、大野さんが紹介議員になり「学校給食費無償化を国に求める」請願をしたが、賛成者がいなかった。仲間を作ってから請願するようにと助言したが、国会で無償化が論議されるようになり共産党は先見の明があると思った。
- (Eさん) 耕作放棄地を元に戻すためには町が耕作できるように準備して欲しい。協力の意思があっても自分の機械ではできない。
- (Fさん) 80代でひとり暮らし。住み始めて6年になるが、社協や役場の人が覗いてくれない。不安だ。
- (Gさん) 大野さんの選挙ビラに西明神残土置場のこ

とが載っていた。汚染された水が田に入ったら大変なのでとても気になっている。取り組んでほしい。

(Hさん) 久万中の運動会は生徒が中心となり力が発揮され、すばらしかった。

(Iさん) 年金暮らしで食事の買物にも苦勞している。冬場灯油1缶もらえないだろうか。

(Jさん) 地域医療を守って欲しい。地域の人のことをよく知ってくれている先生にみてもらえる病院が大切だ。

畜産農家に餌代の補助が実現

前回の6月議会で、餌代高騰に苦しんでいる畜産農家へ餌代補助と、同じく値上がりしている床に敷くおがくず代に対して町内事業として援助してほしいことを要求。

結果、飼料代1頭につき9,000円の補助が出ることに。おがくずについては今後の課題。他の議員も前年度3月議会で発言されたこともあり、声を上げることの大切さを痛感した。



久万高原町稲作受託者等支援事業

(農業戦略課)〈広報2025.4月号より〉

水田の受託などを通して集落の活性化や美しい農村風景を維持するために必要な農業機械を導入する経費を補助。

・対象 1ha以上の水田を耕作する農業者

・購入費の1/2以下

耕作面積 1ha以上2ha未満 75万円

耕作面積 2ha以上3ha未満 100万円

耕作面積 3ha以上 150万円 (上限)

9月議会 私の一般質問

お米の増産に町として何ができるか質問しました

(問) 昨年、主食である米が店頭から消えた。米の需要に供給が追いつかなかったからだ。

コロナ禍で米の需要が減り、米が余り、米価の下落が起きた。時給10円の農業と言われ、全国的に稲作農家は激減し、久万高原町でも激減した。

コロナ禍が終わり米の需要が急増し供給が追いつかず、米価高騰を引き起こした。

今、米の増産が求められている。久万高原町では稲作農家が減り、耕作放棄地が増えている。米の増産のため町としてどう考え、どう取り組むか。

(答 河野町長) 5年間で稲作農家は42戸、栽培面積57ha減少しており、米の増産は厳しい。

補助事業として、水路の改修、機械購入の補助、水田畦の整備、パイプライン化工事、鳥獣被害防止のためワイヤーメッシュを設置した。

米の等級では一等米が94.7%で高い品質を維持している。高温耐性の品種への対応も進めている。今年度は清流米30kgが16,000円と提示され、うれしい悲鳴となっている。今後とも清流米を守るため情勢を注視し農家に寄り添っていききたい。

(問) 久万高原町には中山間地が多いが、標高が高く昼夜の寒暖差が大きいため、野菜も米も食味が良いと高い評価を受けている。町は自信を持って農業政策を進めるべきだ。増産のためには栽培面積を減らさないこと、稲作農家が減らないようにすることが必要だ。

昨年度から受託農家への機械代の補助が増額され、耕作面積条件が1haと緩和されたことは受託農家の助けになっているが、補助条件に満たない1ha未満の耕作者が74%を占めている。機械が壊れたら農業のやめ時という苦しい声をよく聞く。ここにこそ補助金を出すべきではないか。水田は食料生産だけでなく、洪水を防ぎ、環境や文化を守っている。若い農業者が稲作に魅力を持てるよう、小規模農家への後押しをすべきではないか。

国連では2019年から2028年までを「国連家族農業の10年」とし、日本も共同提案国となっている。小規模家族農業が見直されている。まずは耕作面積が1ha未満であっても、米をJAや業者に販売している農家を機械代補助の対象に広げるべきではないか。

(答 農業戦略課長) 令和6年度から予算を増額し、要件を緩和して受託農家の機械代補助を行なっている。このことは農村風景維持を指針としている。今後、稲作農家の減少が予想されている。機械補助の対象内容は慎重にすべきと考えている。

(問) 増産ともなれば耕作放棄地に真剣に向き合わねばならない。放地すると、獣のすみかとなり、3年以上経つと通常の機械では耕作出来なくなる。耕作放棄地に対してどう取り組み、どのような効果があったのか。

(答 農業戦略課長) 農地への復旧を行う場合、10aあたり5万円補助している。令和5年・6年は利用者が少ない。耕作放棄地は復旧困難な条件不利地が多いからだ。少しでも復旧できるよう研究していく。

(問) 中山間地の稲作農家は高齢化と後継者がいないという深刻な問題を抱えている。その上畦畔が広く草刈りが重労働、耕作放棄地は増える一方だ。このような中、一人では農業が続けられないと苦悩と模索する中で、仲間を作って助け合って農業し、耕作放棄地を元に戻し、収益を上げ、後継者をつくり、集落を守りたいと話をきいた。もし成功すれば新しい風になると思うが、この動きをどう思われるか。応援するか。

(答 町長) ぜひ新しい風になっていただきたい。今後ますます農家が減っていくことが懸念される中で、今までの個人経営には限界も見える。今後十分に検討していきたい。

総務・文教・厚生委員会での私の発言

(問) どの学校の体育館も避難所になっていると思う。夏場の夜のイベントで体育館を使わせてもらったが、網戸がついているのは足下の窓だけなので他はどこも開けられないと言われた。冷房がないからせめて網戸にする必要があるのではないかな。

(答 教育委員会事務局長)

町内全体網戸がない体育館は結構ある。調べて費用を考えて検討していきたい。



最近の外国人を排除する政治家の言動に異議あり。私たちの生活が苦しいのは外国人のせいではありません。敵対させ、分断を持ち込むものです。高齢者と若者を敵対させたり、男性と女性に差をつけ、女性の待遇を低くすることも分断です。分断は本当の原因を見えなくする権力者の常とう手段です。私たち弱い立場の者はまどわされず力を合わせましょう。

共産党のことは報道ではなかなか取り上げられません。「しんぶん赤旗日刊紙」「しんぶん赤旗日曜版」は電子版にもなっております。ぜひご購読ください。